

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年1月29日

上場会社名 オークマ株式会社
 コード番号 6103 URL <https://www.okuma.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月8日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名
 (氏名) 家城 淳
 (氏名) 堀江 親
 TEL 0587-95-7822

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	87,788	△33.5	2,240	△82.3	2,702	△79.5	617	△93.1
2020年3月期第3四半期	132,001	△13.8	12,622	△34.5	13,164	△35.1	8,964	△30.0

(注)包括利益 2021年3月期第3四半期 3,799百万円 (△64.1%) 2020年3月期第3四半期 10,573百万円 (22.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	19.56	—
2020年3月期第3四半期	283.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	211,062	172,645	78.3
2020年3月期	212,318	171,375	77.3

(参考)自己資本 2021年3月期第3四半期 165,186百万円 2020年3月期 164,108百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	65.00	—	65.00	130.00
2021年3月期	—	15.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	20.00	35.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	122,000	△29.1	4,000	△73.3	4,500	△71.1	1,800	△83.2	57.01

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	33,755,154 株	2020年3月期	33,755,154 株
2021年3月期3Q	2,183,530 株	2020年3月期	2,182,921 株
2021年3月期3Q	31,571,959 株	2020年3月期3Q	31,572,817 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
(1) 受注及び販売の状況	9
(2) 海外売上高	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、新型コロナウイルスの影響により急激に悪化した世界経済が4-6月期を底にして持ち直しに向かう展開となりました。

工作機械の需要動向につきましては、2020年4月から5月の最悪期を経て、感染拡大の落ち着きに伴い、緩やかな回復に向かいました。

米国市場では、需要は回復傾向で進みました。自動車関連をはじめ、建設機械、農業機械等、幅広い分野で設備計画が再開され、投資に慎重とされる航空機関連においても、生産効率化を目的に生産設備の刷新等を図る企業が見られました。更に設備投資の動きは中・小規模事業者にも広がり始めました。

欧州市場では、製造業の景況感に改善が見られ、ウイルス感染拡大の影響を強く受けた南欧諸国においても設備投資の動きが戻り始めました。

中国市場は、一早く持ち直しに向かい、コロナ禍以前から続く建設機械関連からの需要は堅調に推移し、更に風力発電等のインフラ関連、自動車関連等、幅広く設備投資の動きが加わり、工作機械の需要はコロナ禍前の水準を超えるまで回復しました。

国内市場では、半導体製造装置や建設機械関連からの需要は底堅く推移し、また自動車関連をはじめ幅広い業種において慎重ながらも需要は持ち直しに向かいました。

このような経済環境の下、当企業グループは、グローバルでの顧客獲得、業務効率向上、費用圧縮による収益確保と体質強化を図ると共に、コロナ禍を機に一層高まる自動化・無人化のニーズ、そして脱炭素化社会の実現に向けて、環境対応の社会要請に応える技術開発を進めてまいりました。このため独自のAI・知能化技術を搭載したスマートマシンを幅広く提供すると共に、工程集約、機械稼働の遠隔監視、DX（デジタルトランスフォーメーション）対応等、生産性向上に貢献するスマートマニュファクチャリング技術・自動化システムの提案を推し進めることにより需要を喚起してまいりました。

営業戦略におきましては、感染拡大防止に伴い販売活動に制約を受ける中、Webによる商談、見積もり等、非接触での商談の促進を図り、デジタル技術を活用してお客様体験価値を拡張する販売活動を展開し、受注獲得に努めてまいりました。

2020年7月に新設した「ものづくりDXセンター」を核として、リモートでの試切削、立会検査、加工技術支援を実施する等、デジタル技術の活用を一段と進め、リアルとバーチャルの両面でお客様体験価値の一層の向上を図り、受注拡大につなげてまいりました。またデジタル技術を活用したお客様対応を当企業グループ全体で展開し、米国の超大手顧客と販売子会社「Okuma America Corporation」及び日本のオークマ本社工場をオンラインでつないでWeb立会検査を行う等、コロナ禍により様々な制約がある中、機動的な顧客対応を展開しました。

国内、海外で展示会の中止が相次ぐ中、米国では2020年9月にWeb上で開催された「IMTS Spark」に出展すると共に、自社のWebサイトにもバーチャル展示場を展開し、リアルとバーチャルの両面での販売活動を展開致しました。国内では同年7月に「WEB OKUMA MACHINE FAIR 2020 Die & Mold」を開催し、11月には「JIMTOF2020 Online」に出展すると共に、「WEB OKUMA MACHINE FAIR -JIMTOF2020-」を開催し、延べ2万7千人を超える来場をいただきました。日本各地、世界各地の販売拠点では、感染予防に万全を期しながら地域密着のミニ展示会等の対応により、製品や試切削等の実際の見学に対するご要望にお応えする等、リアルとバーチャルの両面からお客様との接点の維持、拡大を図りました。

技術戦略におきましては、スマートマシンの新機種開発を進めると共に、労働力不足への対応に加え、遠隔、非接触での自動化・無人化のニーズが高まる中、次世代ロボットシステム「ROIDシリーズ」等、自動化・無人化システムの仕様展開の充実を図りました。

製品開発では、脱炭素化社会の実現に向けた取り組みとして、工場における空調稼働の最小化に向けてサーモフレンドリーコンセプト等のAI・知能化技術の適用機種を拡大する等、環境に配慮し社会的な要請に応える製品、仕様の拡充を着実に進めてまいりました。

5面加工門形マシニングセンタ「MCR-B V（ファイブ）」は、空間精度の補正技術と高度熱変位制御技術を融合し、多種多様な大物部品の高精度な高能率加工と計測を1台で完遂する革新性が評価され、「2020年十大新製品賞本賞」（日刊工業新聞社主催）を受賞致しました。また、5面加工門形マシニングセンタ「MCR-S（Super）」並びに立形マシニングセンタ「MB-80V」は、超高精度を指向し、スループットを最大化する生産デザインの在り方が評価され、「第50回機械工業デザイン賞 IDEA」（日刊工業新聞社主催）を受賞致しました。

製造戦略におきましては、スマートファクトリーDS（Dream Site）1、DS2、DS3の自動化設備への生産負荷の集約を進め、更に自社製品の超複合加工機「MULTUS U4000 LASER EX」による「焼入れ・旋削・ミーリング」の工程集約等、生産革新を加速させると共に、物流動線の見直しや倉庫の集約による物流の効率化を推し進めることによりコストダウンと内製化の拡大を図り、あわせて短納期対応を強化し、受注獲得につなげてまいりました。

海外では、欧州販売子会社「Okuma Europe GmbH」が現地販売代理店を子会社化して設立した「Okuma Deutschland GmbH」（ドイツ、2019年9月設立）及び「Okuma Benelux B.V.」（オランダ、2020年5月設立）により、顧客接点の強化を図り、また生産子会社「北一大隈（北京）机床有限公司」（中国）においては、横形マシンングセンタのラインナップの拡充により顧客層を拡げ販売拡大を図りました。生産子会社「大隈（常州）机床有限公司」（中国・江蘇省）では稼働を本格化させ、中国市場における「GENOS」シリーズの受注拡大に努めてまいりました。

これらの事業戦略を確実に実行してまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の連結受注額は88,493百万円（前年同四半期比18.8%減）、連結売上高は87,788百万円（前年同四半期比33.5%減）、営業利益は2,240百万円（前年同四半期比82.3%減）、経常利益は2,702百万円（前年同四半期比79.5%減）、親会社に帰属する四半期純利益は617百万円（前年同四半期比93.1%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末と比較して1,255百万円減少し、211,062百万円となりました。主な要因は「受取手形及び売掛金」の減少6,945百万円、「たな卸資産」の減少3,755百万円、「有形固定資産」の減少932百万円、「電子記録債権」の減少535百万円、「現金及び預金」の増加6,357百万円、及び「投資有価証券」の増加5,006百万円などによるものです。また、負債は前連結会計年度末と比較して、2,526百万円減少いたしました。主な要因は「支払手形及び買掛金」の減少2,143百万円、「賞与引当金」の減少932百万円、及び「その他流動負債」の増加1,085百万円などによるものです。純資産は、「その他有価証券評価差額金」の増加3,600百万円、「利益剰余金」の減少1,908百万円、及び「為替換算調整勘定」の減少715百万円などにより、1,270百万円の増加となりました。この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は78.3%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の世界経済は、足下では新型コロナウイルス感染が再拡大するも、各国政府による追加経済対策等により緩やかな回復を維持することが期待されます。そしてコロナワクチンの普及によって感染を押しさえ込んでいく中で、回復の足取りが強まることが予想されます。

工作機械の需要動向につきましては、この新常态におけるものづくりで顕在化した新たな自動化・省人化の需要が本格化することが見込まれます。そして非接触での安心、安全のための自動化・無人化のニーズは、従来の労働力不足への対応に加えて、新たな需要の拡大を見込みます。更には脱炭素社会に向けた自動車の電動化、再生エネルギーの社会インフラ構築に、新たな成長領域を見込みます。

このような経営環境の下、当企業グループは、これまで培ったスマートマシン、スマートマニュファクチャリングの技術を土台に、非接触、自動化・無人化、工程集約、デジタル革新・DXへの取り組みで「総合ものづくりサービス」企業として成長してまいります。

営業面では、世界的な設備投資の回復が見込まれる中、コロナ禍を機に定着したリモートでの商談、Web展示会等を展開し、リアルとバーチャルの両面からお客様体験価値を拡張すると共に、国内及び海外の販売・サービス拠点・販売網の拡充、強化を図ることにより地域に密着した顧客対応や販売促進策を展開し、販売拡大に注力してまいります。またデジタル投資による需要や脱炭素社会に向けた新たな需要を取り込み、販売拡大を加速してまいります。

技術面では、独自のAI・知能化技術の開発、デジタル活用を更に加速させ、これらを搭載したスマートマシンの開発を進めてまいります。次世代ロボットシステム「ROID」シリーズ等、自動化・無人化システムの更なる充実を図り、自動化・無人化ソリューションを提案して需要を喚起してまいります。また脱炭素化社会の実現に向けた環境対応等、社会的な要請に応える技術・ソリューション開発を進め、オークマの成長につなげてまいります。

製造面では、当社製品の強みを活かした生産工程の刷新を展開し、自社開発の「ARMROID」による多品種少量生産の自動化等、次世代製造技術による生産効率の向上、コストダウンの拡大を図ると共に、革新技術の実証を推し進めオークマブランドに対する信頼を一層高めてまいります。また本社工場、可児工場の再開発の準備を進め、自己完結一貫生産体制の一層の強化を図ってまいります。

調達面においては、グローバル調達網の再整備、協力会社への技術支援等、BCPの観点からサプライチェーンの強化の取り組みを推進してまいります。

当企業グループは、長年に亘り培ってきた「機電情知（機械・電気・情報・知識創造）」融合の強みを展開し、自動化・無人化の対応力、デジタル革新技術・DXの提案力、トータルソリューションの提供力の強化を図ってまいります。そして今期の営業、技術、製造の戦略を進めながら、ウィズコロナ、アフターコロナでの経済社会の変化を捉えて成長するための土台を築いてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	48,132	54,490
受取手形及び売掛金	29,205	22,259
電子記録債権	1,233	698
たな卸資産	52,276	48,521
その他	5,911	5,713
貸倒引当金	△142	△139
流動資産合計	136,618	131,544
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,299	24,665
その他（純額）	22,712	22,414
有形固定資産合計	48,012	47,079
無形固定資産		
投資その他の資産	4,984	5,392
投資その他の資産		
投資有価証券	19,305	24,312
その他	3,430	2,766
貸倒引当金	△32	△32
投資その他の資産合計	22,704	27,046
固定資産合計	75,700	79,518
資産合計	212,318	211,062

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,032	7,889
電子記録債務	9,359	8,483
短期借入金	1,195	634
1年内償還予定の社債	-	5,000
未払法人税等	752	407
賞与引当金	2,126	1,193
役員賞与引当金	146	32
製品保証引当金	337	268
その他	8,785	9,871
流動負債合計	32,736	33,780
固定負債		
社債	5,000	-
退職給付に係る負債	1,495	958
その他	1,711	3,678
固定負債合計	8,206	4,636
負債合計	40,943	38,417
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,000	18,000
資本剰余金	41,718	41,718
利益剰余金	114,459	112,551
自己株式	△9,863	△9,866
株主資本合計	164,314	162,403
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,357	7,958
為替換算調整勘定	△2,480	△3,195
退職給付に係る調整累計額	△2,084	△1,980
その他の包括利益累計額合計	△206	2,782
非支配株主持分	7,266	7,459
純資産合計	171,375	172,645
負債純資産合計	212,318	211,062

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	132,001	87,788
売上原価	91,857	63,446
売上総利益	40,143	24,341
販売費及び一般管理費	27,521	22,101
営業利益	12,622	2,240
営業外収益		
受取利息	164	49
受取配当金	724	542
その他	418	442
営業外収益合計	1,307	1,034
営業外費用		
支払利息	25	22
為替差損	338	191
その他	401	358
営業外費用合計	765	571
経常利益	13,164	2,702
特別利益		
雇用調整助成金	-	649
特別利益合計	-	649
特別損失		
投資有価証券評価損	-	184
工場再構築費用	403	-
操業休止関連費用	-	1,594
その他	-	81
特別損失合計	403	1,860
税金等調整前四半期純利益	12,761	1,491
法人税等	3,362	670
四半期純利益	9,399	821
非支配株主に帰属する四半期純利益	434	203
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,964	617

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	9,399	821
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,167	3,605
繰延ヘッジ損益	△0	-
為替換算調整勘定	△1,132	△730
退職給付に係る調整額	140	103
その他の包括利益合計	1,174	2,978
四半期包括利益	10,573	3,799
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,427	3,606
非支配株主に係る四半期包括利益	146	192

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	66,425	36,193	19,282	10,099	132,001	—	132,001
セグメント間の内部売上高 又は振替高	44,864	30	77	9,553	54,526	△54,526	—
計	111,290	36,224	19,359	19,653	186,527	△54,526	132,001
セグメント利益	9,875	1,470	368	1,516	13,230	△607	12,622

(注) 1. セグメント利益の調整額△607百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	45,501	22,717	12,399	7,169	87,788	—	87,788
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20,884	14	59	4,342	25,301	△25,301	—
計	66,385	22,732	12,458	11,512	113,089	△25,301	87,788
セグメント利益又は損失(△)	△314	658	△457	500	386	1,853	2,240

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額1,853百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

(1) 受注及び販売の状況

①受注状況

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
NC旋盤	25,485	15,295	19,874	13,926
マシニングセンタ	50,651	27,928	46,246	24,771
複合加工機	27,139	9,675	18,123	7,230
NC研削盤	2,546	1,703	1,395	781
その他	3,117	884	2,852	923
合計	108,940	55,487	88,493	47,632

(注) 受注高、受注残高には消費税等は含まれておりません。

②販売実績

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)
NC旋盤	34,134	25.8	18,201	20.7
マシニングセンタ	60,930	46.2	46,532	53.0
複合加工機	30,493	23.1	18,840	21.5
NC研削盤	3,181	2.4	1,450	1.7
その他	3,262	2.5	2,762	3.1
合計	132,001	100.0	87,788	100.0

(注) 売上高には消費税等は含まれておりません。

(2) 海外売上高

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	30,493	5,543	19,517	12,313	10,892	78,760
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	132,001
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	23.1	4.2	14.8	9.3	8.3	59.7

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	20,841	2,291	12,386	11,586	6,250	53,357
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	87,788
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	23.8	2.6	14.1	13.2	7.1	60.8